

会 議 録 (第 1 回総合教育会議)

会議の名称	平成28年度 第1回 飯能市総合教育会議	
開催日時	平成28年8月3日(水) 開会 午前9時00分 閉会 午前10時35分	
開催場所	飯能市役所 本庁舎別館 会議室2	
議長氏名	市長 大久保 勝	
出席委員	市長	大久保 勝
	委員長	大野 文敬
	委員長職務代理	南林 さえ子
	委員	森 健二
	教育長	澤田 清志
欠席委員	委員 小見山 実	
説明者の職氏名	企画調整担当部長 新井 洋一郎	参事兼学校教育課長 青柳 義久
関係者職氏名	教育部長	今西 規雄
	教育総務課長	浅見 浩司
	スポーツ課長	内沼 和彦
	生涯学習課長	大野 美智子
	公民館管理担当課長 清水 直子	図書館長 岡部 隆志
	郷土館長 柳戸 信吾	
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 協議・調整事項 ① 質の高い学校教育について ② 小規模校の課題解決について ③ その他 4 その他 5 閉会	
配付資料	・資料1 第5次総合振興計画基本構想(H28~H37)抜粋 前期基本計画(H28~H32)抜粋 教育大綱 抜粋	

傍 聴 人	2名	
事務局職員 職 氏 名	企画調整担当部長 新井 洋一郎	企画調整課主幹 奥 孝明
	企画調整課専門員 紫藤 安夫	企画調整課主査 細田 宏徳
	企画調整課主事補 森田 沙織	

発 言 者	発 言 内 容
	<p style="text-align: right;">開始 9時00分</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(※市長あいさつ) (※大野委員長あいさつ)</p> <p>3 協議・調整事項</p> <p>企画調整担当 部長</p> <p>それでは、次第に従いまして3 協議・調整に入らせていただきたいと存じます。 ここから先は飯能市総合教育会議設置要綱第4条の規定に基づき、大久保市長に議長として議事の進行をお願いいたします。</p> <p>市長（議長）</p> <p>これより議長を務めさせていただきます。 市長と教育委員会の意思疎通を十分に図るための会議でございます。 どうか活発な意見交換ができますように、ご協力をお願いいたします。 それでは、「①質の高い学校教育について」を議題といたします。 事務局から説明をお願いします。</p> <p>企画調整担当 部長</p> <p>(※資料1より、第5次総合振興計画基本構想(H28～H37)抜粋、前期基本計画(H28～H32)抜粋、教育大綱 抜粋についての説明)</p> <p>市長</p> <p>事務局からの説明は以上です。 委員の皆様から忌憚のないご意見をお願いいたします。</p> <p>森委員</p> <p>ご説明いただきありがとうございます。質の高い学校教育というのはある意味あたりまえの話であります。ここで美辞麗句を並べるだけになってはいけないと思います。具体的にしていけないと、実行可能なかの必要性、継続性、発展性があるのか、そういったことがわからないままになってしまいます。そうならないためにも、まずはどんな意見であっても発言し、現場の意見を吸い</p>

上げていくことが必要です。世間、世界が必要とされる教育は何か、それを実践する方策は何か、そういった意見を集約することから始めなければならないと考えます。我々だけで考えていてはたいしたもの出来ません。ただし、吸い上げた意見を取捨選択するのは我々の責任上でやらなくてはならないと思います。

グローバル社会については、避けて通れない世界であります。会話力とパソコン能力は個人的に必須だと考えますが、英会話については学校の先生になったからといって英会話を教えることはなかなか難しいことです。質の高い教育として、英会話を上達させることは一つの手段であります。有名建築家の安藤氏は英語が全く話せなくても世界で活躍しているという事例があります。ある意味では「自分の意見を言う力」を身に着けることも質の高い学校教育として必要なのではないかと考えます。能力はあるが対話が出来ないという人が多くみられますが、そこは気を付けなければならない点だと思います。

また、忌憚のない意見としてあえてお話しします。今の学校制度では1～6年まで同じ場所で教育を受けますが、大学のように教科ごとに場所を変えて学ぶことも良いのではないかと思います。現実的ではないかもしれませんが、飯能は地域ごとに特色がありますから、例えば山間地域で体育の授業をすることもよいかと思えます。こういったゼロベースの発想が今は必要であると考えます。ここで改めて質の高い学校教育を掲げる意味は、今までのベクトルから進めていくのではなく、一度シャッフルして、本当に質の高い学校教育とは何かを連携して皆で考えていくことがとても大切です。そうすることで、今までになかった取り組みもできるかもしれません。

他と比べてみても飯能市は連携があるかと思えますので、現場の声も吸い上げ、行政との連携も頭に入れておいていただけるとありがたいと思いました。

市長

ありがとうございました。
南林委員は何かありますか。

南林委員

森委員の連携の新しい考え方というところで、広い行動範囲というのはこれから必要だと思います。

まず、抜粋の資料がよくまとまっていて意見が出しやすいと感じ、とても感心しました。

また、資料の中の「まちづくりの基本理念」の「3子ども、若者の夢・未来を育む」という部分が本市の消滅可能性都市を払拭する一つの方向であると強く思います。

子どもをどう育てるかグローバル社会という点を考えると、普通の人やはり英語が理解出来る方が良いと思います。また、小さいころから英語に触れていくことも重要だと考えます。グローバル社会で生きていくための国際理解教育というのは、国や近隣の市町村が行っている通常のものではなく、もっと質の高い国際理解教育を飯能市がしていくと良いのではないかと考えます。

今、外国の方に来ていただきネイティブの方から教育を受けていますが、質の高い外国の教育を受けた方からの教育を受けるという視点も1つ必要だと思います。また、現在の決められた人数ではなく、もっと充実した人数で教育を受けることができればよいと考えます。

また、インドの英語教育ではタブレットではないICTのSNSを使用した携帯電話で英語の問題が届いて答えるという新たなアプリケーションが作成され、それを実施しているようです。そういった新しい英語教育やICTの情報機器を活用することも1つの視点で新しい教育として成り立つのではないかと考えます。国際理解教育について更に理解を深めることで、飯能市の特色ある英語教育といったものが作れるのではないかと思います。

それから、2020年に日本で開催されるオリンピックにおいて、飯能市も一歩踏み出して、ホストタウンへの登録というような行動に移し、外国のオリンピックを招くといったことをしていただきたいです。そうして、子どもたちにオリンピックと接触する機会を作ってあげて欲しいです。そうすれば世界に目を開くことができるのではないのでしょうか。何か子どもたちのために教育のチャンスを与えていただきたいです。昔、水泳の鈴木大地選手が子どものころに金メダルを取った日本人選手に色紙を書いてもらい、とても感激して、自分もメダルが取れるかもしれないと思い、そこから努力をし始めたという話があります。また、N

	<p>HKでもオリンピックに指導を受けて高校の生徒たちの記録が伸びたという話を取り上げられていました。オリンピックは子どもたちの良い刺激になると考えます。</p> <p>次に、P2基本施策の1の①「わかる喜び・できた喜び・成長した喜びを実感できる授業づくり」とあり、これはアクティブラーニングのひとつの言葉かと思います。アクティブラーニングは非常に名前としては良く知られていますが、こうしなさいと決まったものが提示されていません。大学でもアクティブラーニングは重要視されていますが、大学教員が行おうと思うと難しく、あまり普及していないのが現状です。しかし、先日、名栗小学校に伺った際、複式授業で子どもたちが自分で担当して授業をしている姿を見て、複式学級は非常に価値があるものだと感じました。複式学級をどのように捉えるかという問題はあるかと思いますが、アクティブラーニングを使うことは子どもたちが非常に成長するのではないかと思いました。ただし、先生の負担がとても大変であることが懸念材料ではあります。</p> <p>それから、ICTのタブレットを活用してなんとかしていきたいと思います。それも、通常のタブレットの使い方ではなく、何か新しい使い方をした教育をして欲しいと思います。そうして、飯能市のモデル校のようなものが出来れば非常にレベルの高い教育に達するのではないかと考えます。そういったことは可能なのか話題にしていけるとありがたいと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。 澤田教育長お願いします。</p>
澤田教育長	<p>森委員、南林委員からお話をいただきましたが、具体的に今の学校現場で何をしているか説明を参事兼学校教育課長にさせたいと思います。</p>
参事兼学校教育課長	<p>英語教育については、各小学校の教科化に向けて今年度から小学校に外国語活動の支援員を配置しています。小学校の教員は英語の免許を持っている教員が少なく、授業に慣れていない教員が多いため、そういった教員の橋渡しとして外国語活動支援員を配置し、担任と「AET」の間で活動しています。現在6名の外国語活動支援員を配置し、順調に進んでいます。</p>

アクティブラーニングについて、飯能市は埼玉県や国からも高い評価を受けています。各学校の研修で、アクティブラーニングの授業の研究を進めていますし、子どもたちが生き生きとわかりやすい授業を受けていくために教員の研修についても進めています。

タブレットについては、なかなか配置できていないのが現状であり、具体的にどういった指導法が良いのかは勉強中であります。実際にタブレットを数台使用している学校の研究をしています。南林委員からお話があったようにモデル校ということであれば今後さらに研究が必要であると考えます。

質の高い教育については、どういう部分に質が高くなる必要があるのかなど第5次総合振興計画と連携して考えていくことが非常に大事であると思っています。また、現場の意見も大切であり、現場の意見を聴きながら今後も努力していきたいと思います。

澤田教育長

昨年度、予算を取っていただき外国語活動支援員を6名配置することができました。どうしても小学校の教員は英語に対する抵抗があるため、少しでもその抵抗を減らしていければと思います。また、「AET」だけが主になって進める授業になりがちですが、あくまでも「AET」は「アシスタント イングリッシュティーチャー」でありますから、「アシスタント」として活用するためには、教員が主として授業を進めるという位置づけを明確にする必要があります。そのため外国語活動支援員を間に入れて活用することで子どもたちによりわかりやすい授業展開を進めていくことが大きな狙いとなっています。

議会でもお話させていただきましたが、北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設「Metsä (メツァ)」が来ることで少なからず多くの外国人が飯能にお見えになるかと思えます。その際に、小中学生がある程度道案内ぐらいは出来るような英会話の能力を身に付けさせてあげたいと思えます。それによりコミュニケーション能力も発達するでしょうし、多くの人とかかわることを通して学習できるのではないかと考えます。ある意味では飯能ではなくてはならない教育になってくると強く思っています。

タブレットを使用した授業については、山間部の学校で試験的に進めています。児童数が少ない分、タブレット数も少なくて済むという発想から山間部の学校で意図的に授業の中でのタブレット活用を進めており、ある意味では、今後モデル校として大きな学校に展開していくことも意図しながら進めているところでございます。

やはり、教育というのは不易な部分と流行な部分が混在しており、今話し合っている部分は流行の部分になるかと思えます。昔ながらの教育とっては失礼ではありますが、不易として押さえないければならないところはきちんと定着させ、尚且つ新しいものに目を向けながら教育を進めていくことが出来れば他の市では出来ない教育に繋がっていくということを考えながら進めていけたらと思えます。

先程、委員の皆様から視点の違ったものの考え方やどうすれば質の高い教育になるのかという話がありました。飯能独自という考え方で言えば、今までも「学習林活動」を進めてきておりますが、もっと山と川を活用した教育を進めていくことが大切だと考えています。そのことは、私の立場から意図的に学校サイドに伝えていますが、すぐにできることではありません。そのため、1年間の教育課程を作っている中で、この教科のところでこういうことが出来そうであると検討している学校もあるかと思えます。ただ都内の学校と同じことを飯能がやっていると意味がありませんから、自然を上手く活用した教育をどうにか位置づけて進めていくことを目指していけたらと思えます。

市長

ありがとうございました。
それでは、大野委員長何かございますか。

大野委員長

第5次飯能市総合振興計画の説明をしていただきありがとうございます。素晴らしい計画が出来ていることがわかりました。

グローバル社会という問題は、飯能市でも様々な面で進めており、避けては通れない時代になると認識しています。

先程、南林委員からお話があったとおり、活躍している人々を見ると、誰かの影響によって、その人が活躍しているということ

も多いかと思えます。オリンピックや世界で活躍するような方と接するような機会を作ることも必要であり大切であると感じました。

質の高い教育というのは、様々な要因が含まれていると考えています。例えば、英語力が上がる、文章の読解力が上がる、数学ができるといったことも質の高い教育だとは思っておりますが、それだけではないと考えます。

今の時代SNSで何でも調べられ学ぶことができますが、タブレットだけに学ぶのではなく人間として様々なことを学ぶことが大事だと考えます。

グローバル社会の中で外国人の方を迎えたときに、日本の文化が高く評価されています。

飯能市は、都心にも近く自然も豊かで理想的な場所にある地域です。教育という面で考えた時、昔ながらの教育である親からお年寄りから教わる教育というものを大事にして行って欲しいと思います。SNSで何でも調べられるから教わらなくていいということではありません。

例えば、外国人が来たときに英語でただ説明するだけではなく、親切に頭を下げることなど、日本のおもてなしの心を飯能も持っていくことが教育の中で必要になっていくと考えます。人の思いやりなどといったことを教育の中で取り入れていっていただきたいと思えます。

また、現在、テロなど世界中で様々な危険性が高まっている時代にあります。こうした怖い時代に対応できるような、子どもの教育をしていかななくてはならないと思えます。

その中で宗教色といったものが日本の中でタブー視されている部分があり、あまり教育の中では出てきません。宗教が良いとか悪いとかではなく、宗教ではこういう教えがあるのだよということも説いていくことも必要なのではないかと思います。イスラムなどの過激な思想をもっている方がいらっしゃいますが、そういうことを判断できる素材を作っておくことが大事なのではないかと思います。教育の中で何も知らないからこそ、過信してしまうということもあると考えられます。そういうものを判断できる教育はしていかなければならないと思えます。

また、飯能市の地域性を考えた時に災害が問題になっていま

す。飯能市は、山を抱えていますから土砂災害等に危機管理を持たなくてはならないと思います。その中で、子どもの時から調べるだけでなく、地元においてこれだけ雨が降ると危ないといった危機管理を持つことが大切だと考えます。最近では危機管理が薄れていますが、ここまで水が来たら逃げないと危ないといったことを若い方は、先人から学び、地域として学び、教育として学んでいかななくてはならないと思います。これは、飯能市独自の教育ということにもなるかと思えますから危機管理については先人から生き抜く力といったことも学んでいって欲しいです。

飯能市では、トップを取る、先進的な教育をしたい、というそういう思いで、より良いものをどんどん取り入れていただきながら、古いものも大切にして生き抜く力を付けていただくことが教育だと思っています。そういったことをお考えいただき基本計画を進めていただけたらありがたいと思っております。

市長

ありがとうございました。

私は臆することなく大胆なことをするのが飯能市だと思っています。先程から英語教育やタブレット教育などの話がありましたが、全てを網羅するくらい大胆によくばりに取り組むことも良いのではないかと考えております。

また、都会からお金をかけて川や山へ遊びに来ている方が今たくさんいますが、そこで地元で遊んでいる子どもたちが、外国人の方に達者に英語を使って臆することなく説明ができれば、この地域はなんだ！と驚かれるに違いありません。

自然を体験し遊びながらも、英語を上手に使いこなせていくなれば、この地域の教育はどんな教育をしているのかと話題になる可能性もあります。これが実現すれば自慢の子どもたち、自慢の地域になります。

他にも自然が豊かな地域はあるかと思いますが、そこを子どもたちが利用しないのでは意味がありません。そうではなく、自然に触れ合い遊びながらも何でもできるという教育ができるのは、飯能でしかできないという大胆な発想も必要だと思います。

よくばりかもしれませんが大胆な教育も大切だと考えます。山だから人口がこれだけだからと、このくらいの教育しかできないというのは違うと思っています。

また、第5次飯能市総合振興計画は実行するための計画であ

	<p>り、実行に向けて進める会議にしなければならないということ念頭に置き、素晴らしい教育に向けての発信の場にしていきたいと思っております。</p> <p>本日委員の皆様から出されたご意見などを踏まえた「質の高い学校教育」を進めるよう、教育委員会、市長部局ともに担当者においては、事業を展開していただきたいと思っております。</p> <p>それでは、議事の「①質の高い学校教育について」は以上とさせていただきます。よろしいでしょうか。</p>
委員	(異議なしの声あり)
市長	<p>皆様のご理解をいただきましたので「①質の高い学校教育について」は以上とさせていただきます。</p> <p>次に、「②小規模校の学校規模適正化について」でございます。事務局から説明をお願いします。</p>
参事兼学校教育課長	<p>小規模校の学校規模適正化に関し、本日は特に吾野・東吾野地区の事について御説明いたします。</p> <p>吾野・東吾野地区の学校規模の適正化については、今まで主に4点の経緯がございます。</p> <p>平成26年12月議会、平沼議員の一般質問で、「適正なる教育環境（生徒数）と課題について」が質問されました。その内容は、「飯能市では複式学級を4校が実施しているが、教育上の適正なる生徒数とは」という質問に対し、教育長は、「文部科学省の適正学級は12から18学級とし、特別の事情がある時はその限りではない」とされており、「飯能市としては地域の実態に応じて学校規模を考えるべきである。」と答弁いたしました。また、「吾野の市長ワクワク座談会の中で、今後さらに児童数が少なくなることを考えて、学校統合について近い将来避けられないであろう。子どものことを第一に考え、また、小・中一貫教育や小規模特認校など特色を出した教育をお願いしたい。という発言があったが、どういうお考えか。」という質問に対し、「今後、児童・生徒の減少見込みを考えると、これ以上の小規模化が児童・生徒にとって適切な教育環境であるかは大きな課題であり、今後、小規模校の統廃合等を視野に入れていく必要が出てきていると認識している。」と教育長は答弁いたしました。そして、「教育委員</p>

会制度の改正もある中で、市長の見解は」との質問があり、「山間部に人を呼ぶに当たり、地域に教育環境のよい学校が存在しないと、人を地域に呼ぶことは出来ない。子は宝、そして人を呼ぶ力がある。教育委員会と市長部局一体となり教育行政を進めたい。」との答弁でございました。

2点目として、両吾野地区の「地元を考える有志の会」との話し合いでございます。平成27年9月17日19時から東吾野地区行政センターで、吾野小学校区3名、西川小学校区3名、東吾野小学校区3名、平沼 弘議員、新井 巧議員、教育長、企画総務部長、教育部長、参事兼学校教育課長、企画調整課長、教育総務課長、教育総務課主査 による話し合いが行われました。この、話し合いを行う前に各3地区の有志が、保護者アンケートを実施しそのアンケート結果に基づいての話し合いでございました。児童数減少に関するアンケートの主な結果については、98件中、統合希望又は必要性を感じている件数が75件、現状維持が4件、当該地区以外への通学希望が1件、その他18件でございました。主な内容ですが、「子ども中心に考えて早急な統合を」「スクールバス対応の要望」「小中学校一貫教育を」「統合が必要だが急がなくてもよい」「通学費の負担が懸念」「統合後の10年後を考えておく必要がある」等が出されました。

3点目として、平成28年5月11日付で、飯能市自治会連合会 吾野支部 浅見支部長より、市長と教育長あて「小学校の教育施設の充実を図る要望書」が提出されました。これは、地域からの相談を受ける中で、自治会連合会吾野支部としての、「小学校統合の早期実現」に関しての要望書となっております。

4点目としては、平成28年7月20日に吾野地区行政センターで開催されました。企画調整課による「まちづくり地域説明会（吾野地区）で学校統合について吾野支部 浅見支部長より、「行政主導で統合にむけて小学校統合を進めてほしい」との意見が出され、副市長より「行政主導、地域主導という事ではなく、話し合いというキャッチボールをしていく中で検討していく。」との答弁がありました。

以上の経緯を鑑み、吾野・東吾野地区の事につきまして、ご意見、ご協議いただきますようお願いいたします。

市長	<p>説明は、以上です。</p> <p>ただいま、参事兼学校教育課長より説明がありました。</p> <p>この件について皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思いますが、冒頭に私の方からお話させていただきたいと思います。</p> <p>まず、飯能市を繁栄させるという役目として、市長の立場からお話いたします。</p> <p>統合というのは、繁栄のはじまりでなくてはならないと考えております。統合によって地域が疲弊してはいけません。統合したことで廃校になった学校は、跡地の利用をしっかりと念頭に置かなければならないと考えています。只々、統合して良かったと終わるだけではいけません。東吾野地域、飯能地域など少しでも人口を増やしていき、地域を疲弊させるようなことを市長としてやってはならないと強く考えています。</p> <p>将来を見据えて地域の繁栄を考えた統合の議論をしていかななくてはならないと思っています。</p> <p>それでは、委員の皆様のご意見を願いいいたします。</p>
大野委員長	<p>教育委員長として市長と同じ考えであります。</p> <p>文科省は1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定しており、その中で、複式学級が増えるとデメリットも少しあると言っております。吾野地域の小学校は3校とも複式学級を取り入れておりますが、遠足、修学旅行等の集団活動の教育効果が下がる、クラス等で男女比の偏りが目立つ、体育、合唱等で集団学習の制約が生じるなどいくつかのデメリットがでてきます。吾野の地域で児童が少なくなっている現状を踏まえると統廃合について考えなければならない時期に来ていることは十分理解しております。</p> <p>市長のお話のとおり前向きに考えなければならなりません。吾野で統合していくにあたってどのようにしたら吾野が良くなっていくか考える必要があります。</p> <p>現状は児童数が2人、3人という学年もございます。複式学級で成果もでていますが、保護者の立場からすると集団生活をさせたいという方が多くいらっしゃいます。統合をすることによって少し人数が増えていく中で、飯能市としては前向きな教育を考えていかなければなりません。</p>

質の高い教育として、例えば小中一貫校を取り入れることやグローバル化の面から考えて英語特区などの特区を作って先進的な教育を進めていくといったこともよいかと思われま

す。飯能市であれば特認校があるわけですから、今後も活用して、中心市街地に住んでいる子どもたちがその学校に時間をかけてでも行きたいと思えるような学校を作っていけたらよいのではないかと考えます。先進的な教育を進めていき、その学校に行けば英語が出来るようになる、質の高い教育が受けられると評判になり、電車を使ってでも行きたいと思えるような学校を作って欲しいと思います。

決して統合することはマイナス面だけではないと考えております。あまりにも人数が少ないとデメリットが増えてしまうということから考えると統合は避けては通れないところまで来ているのではないかと考えています。

その統合のやり方としては、地元と行政が一体となって話をしていくやり方で進めていただきたいです。地元の方の声を吸い上げるような場をこれから先も持っていただき、地元の方がどのようなことを望んでいるのか、そして教育委員会としてはこういうことが出来るのだということをお伝え、地元の方との話し合いをしていただき、この統廃合の話を進めていただけたらありがたいです。すぐに結果が出せるわけではありませんが、地元の方と行政の考え方を一緒にしていかなければならないと感じております。地元の方が早く統合したいのに行政がただ待つて欲しいとなるのではなく、そこは地元と一体となって、こういう教育をするからこれだけ時間をかけてやってみましょう！と行政の方からもアプローチをかけてやっていくことが大事だと考えます。地元の方にこういうやり方をしましょうということをお行政からも出していかなければならないですし、地元はこういう思いがあるのだという声も吸い上げていかなければならないでしょう。自治会連合会からも要望書が出た経緯がありますし、こちらからも出向いてお話を聞く場を持つこともしています。また、庁内の検討委員会も立ち上げ、教育委員の中でも議論をさせていただく機会を設けていただいておりますから、そういった意見等を集約していただき、総合教育会議の中でも話をさせていただきたいと思

います。本日は小見山委員が都合により欠席ではありますが、小見山委員の意見としても、以前、教育委員の話し合いの中でそういった

<p>市長</p>	<p>意見を伝えて欲しい旨を伺っています。</p> <p>市長の話のとおり前向きな教育を作れる方向性で考えていただきながら、地元の方と行政が一体となって進めていただかなくてはなりません。ただ時間の問題もありますから、そこは地元の方の思いと同じような考えで行政も動いていただけたらありがたいと思います。また、教育委員会としてもそういった考え方をしていかなければなりません。</p> <p>地元の意見が無ければ進まないということは当然だと考えています。</p> <p>地元の声をしっかりと聴いて、地元を強調した社会背景を持って進めなければならないということに全く異論はないと感じています。</p>
<p>南林委員</p>	<p>前向きな統合ということで意見は全く同じです。</p> <p>大野委員長からあったように山間地域にモデル校を作るということも一つの方策としてあるかと思います。</p> <p>一貫校というのは英語特区ということも考えられるという話を教育委員の間に以前させていただきました。一貫校にするとそれはそれで非常に特色ある教育が可能になるということがあると思います。英語の教科化というところで、一貫校なら新しい英語の教育ができるということであれば非常にプラスになる統合になるのではないのでしょうか。</p> <p>また、平成34年までの吾野地域の数値をデータでみると3校とも減少の一途となりますが、名栗はある程度いくと横ばいとなっています。</p> <p>そういう意味では、小学校3校は数値的に見ても減少が止まらない傾向が見えます。</p> <p>減るだけでは困りますから、特認校ということを考えて、あそこの学校に入りたいと思えるようなひとつのモデル校を統合したところで作り、市街地からも通っていただければよいと思います。吾野地域は電車が通っていますから、その通学費については行政で補助する等の対策を取ることも考えられます。人を集めることが出来るような学校にするということを考えていくことが大切です。特認校の良さを活かしながら人数を増やすことが可能にならないだろうかと考えます。</p>

市長	<p>現状では減少が止まらないということもありますので、地元の子どもたちの人口減に対する思いが急速に強くなるのではないかと思います。行政も一緒にもう少し前向きに考えていかななくてはならないと考えます。</p> <p>ありがとうございます。 森委員から何かありますか。</p>
森委員	<p>小規模校の課題については前から意見交換をしてきました。まず、地元の方々が今後どうなるのかという恐怖心や不安があるかということは我々も受け止めています。何もしてこなかったわけではありません。</p> <p>ただ、我々は教育ということを考えますが、教育というのは生活があって初めて教育ということになります。協議の①にも関係することで「質の高い学校教育」とありますが、文科省では「質の高い学校教育環境について」という言い方をしていたりします。その環境を改善するにはどうしたらよいかということも、今後どこかでやりながらではないといけません。統合したのは良いが10年後はどうなっているかわからず、結局減ってしまっただけは、また同じことの繰り返しで、何も意味がない話になってしまいます。統合が繁栄に繋がらず、手を拱いているだけでは未来は辛いものにしかありません。これは我々の責任なのかなという気がいたします。本当に様々な手を考えて、学校教育環境が高まるにはいったい何をすべきか真剣に考えていかなければなりません。</p> <p>また、田舎の島で親元を離れてでも子どもたちが集まってくるという事例があります。それは本当に魅力があるからだと思えます。魅力があるところには人が集まります。当然、魅力があることを発信する情報発信力は必要になってくるかとは思っています。</p> <p>一発逆転ということは中々ありませんから地道にやっつけていかななくてはならなりません。</p> <p>一番大事なものは地元の人たちの意見です。きちんと目を向けているということを発信していかないとまずいと思えます。</p> <p>もちろん目を向けてはいますが、地元の方からしたら様々な意見や要望書まで出していて、いったい行政は、あるいは教育委員</p>

	<p>会は何をしているのかと思われてしまったら、今後の話し合いも上手くいくところも、上手くいかなくなってしまうかもしれません。疑心暗鬼の状態になっては一番いけないのです。きちんと説明する説明責任を果たしていかななくてははいけません。</p>
<p>市長</p>	<p>私は、吾野地域が大好きという見地からいかななくてははいけないと思います。事務的に行うのではなく、吾野が大好きだという気持ちを持っていれば、どうしたらいいのか自ずと方向性が決まってくるかと思えます。地域の方に誤解が無いように行動していかななくてはなりません。吾野地域が大好きだからこそ、しっかりとした方向性を作り、汗を流していきたいと考えます。単なる統合ではなく、地域の繁栄を見据えたことをしていかなければならないと思っています。決して衰退の地域を出してはいけません。</p>
<p>澤田教育長</p>	<p>多くの方々からお話いただいたとおり、教育委員会内部ではこのことについて、話し合いを進めてきています。地域の方からの要望を受けているわけですから早めに返していかなければなりません。かといって、これから先を考えた時に統合することによって使われなくなる学校の跡地利用のことまで視野に入れながら考えていく必要があります。繁栄あってこそその地域ですので、そこを意図しながら今後も進めていけたらと考えています。</p> <p>飯能市の教育は、数年前から小中を9年間の教育ということで8つの中学校区があります。14の小学校が8つの中学校の中に入って子どもたちをどう育てるかということ在意図的に進めています。その中の延長線上には、小中分離型の一貫教育という考えもあるかもしれません。また、今年より義務教育学校という制度が新しく加わりました。これは、今までの6・3制ではない4・3・2制、5・4制など、様々な割り方が出てきて子どもたちの発達段階に応じて少し変化をさせます。その場合はあくまでも施設一体型の学校になっていきますので、施設の改修など大いに必要になっていきます。そういった場合には、そのあたりも議論していかなければならないと思っています。</p> <p>義務教育学校につきましては、まだまだ先進的な事例がいくつもなく、そこにはたくさんの研究が必要と考えます。今後、一貫教育を進める場合は施設分離型になるのか施設一体型になるのかわかりませんが、そのあたりも含めて考えていき、そして、山間部の学校の吾野ばかりではなく、今後起こる可能性がある名</p>

	<p>栗・南高麗も考えていく必要があります。文科省が考えている適正化というのは、12～18学級と言われていて、クラス替えのできる学校という捉え方をされてしまうと飯能の半分の学校は成り立っていきません。中学校でも8分の3の学校は単学級の状況になっているのでそういうことも含めて考えていけたらと思います。</p> <p>また、それとは全く別の方向で見ていくとアクティブラーニングというお話がありましたが、複式学級の中で先生がいない間その学年の子どもたちは自分たちで教育を進めなければならないために、ある意味ではリーダー性のある子どもたちが順に輪番制になって自分たちで授業を進めていきます。</p> <p>これこそ、アクティブラーニングの最たるものだと思います。そういう子どもたちが山間部に育っているということを飯能の教育を進める上ではひとつ考えていかななくてはならないと考えます。</p> <p>だからといって、それが適正化に繋がるのかというところの難しさがあります。そのところも含めて教育委員会内部でも進めていき、庁内の検討委員会の中でもそれを進め、地域の方々の意見を聴いて、今後とも進めて行けたらと思います。</p> <p>地域が寂しくなるということは教育にも関係します。運動会などの各種イベントに数人しか応援に来ないと寂しいものです。大勢に見てもらい応援してもらおうと非常にやる気が湧いてくるかと思えます。学校教育でも経済の視点からでも人口が少なくなり衰退するということは、学校は存続しても本当に子どもたちがやる気になってみんなで応援できるかという別になってくると考えます。地域と学校教育というのはまさに一体だと思えます。南林先生はどのようにお考えですか。</p> <p>山間地域は特に物凄いと感じます。どうにかしたいですね。</p> <p>よくテレビで、山間地域に通学している児童が2人くらいの学校だと、全地域の方々が来て応援している姿を目にしたことがあります。自分の子どものように思っているのだと思えます。地域が一体となっていることで、誰か来たときに臆することなく様々なことが言えるという教育が自然とできています。大人とすぐに話せることなど大事なことだと思います。</p>
市長	
南林委員	
森委員	

大野委員長	<p>子どものための学校ですから、子どもの教育を第一に考えなければなりません。人数の問題や今後子どもたちがどのように教育を受けられるかということを考えながら、我々は教育の場を提供するわけです。その子ども、地域にあった教育を進めていきたいと思えます。</p>
市長	<p>山間地域というのは、自然に遊ぶところがあります。それをしっかりと利用していくことが大切です。自然の中で遊びながらも、そこに来た外国人に英語で話すことが出来れば、驚かれるに違いありません。遊び心もあり、優しさもあり、英語も話せるということになれば理想中の理想であると思えます。</p> <p>地域の繁栄ということは、まさに学校教育の繁栄に繋がります。近くに働き場がなくて両親が遅く帰ってくるような寂しい地域にさせてはいけません。地域の疲弊は決して起こしてはいけないと思っています。</p>
南林委員	<p>地域の雇用は大切だと考えます。両親が近くで働けるということは非常に良いことだと思いますから、山間部に何らかの雇用を是非お願いしたいです。雇用を導き出すような森林を使った施設が何か考えられるのではないかと最近委員長とも話しています。</p>
市長	<p>私もそれを一緒にやらなくてはならないと感じています。都内などから山間部へ来ていただき、転入者が増え、雇用も生まれて人口が増え、児童数の増加に結びつくことができれば理想的だと思います。廃校もしっかりと利用して、人口も増加し、児童数も増加に繋がったということになればよいと考えます。森先生いかがですか。</p>
森委員	<p>NPO法人で移住振興センターというものがあります。これは埼玉県だけではなくて全国の各市町村の出先機関といったところで存在します。数は、200程度あったと思えます。そこではパンフレットもしっかりとしたものが作られていて、有用な人材の取り合いをするようなことをしていました。特にお子さんがいるような方には「家まで用意をします。雇用の研修もあります。研修の間の助成金も出します。」と様々なことをして呼びかけていました。もちろん、保育所の問題も取り組んでいました。</p> <p>都会でこのまま暮らしているのだろうかと考えている人</p>

<p>澤田教育長</p>	<p>はたくさんいます。上場企業に勤めていた方が田舎に帰って農業しているということもあります。もちろん収入が少なくなります、そういう生き方を選ぶ方もたくさんいます。</p> <p>飯能市は、空気も水も山も綺麗で様々な遊びが出来ます。空き家の活用も含めて、この環境を逆手にとって利用できるにはどうしたらいいのかということも、市長なりにお考えになっているとは思いますが、そういう視点もあるといい気がいたしました。</p> <p>飯能市独自の教育、特色ある教育をこれからも推進していかなければならないと強く思いました。</p> <p>そのためには、ある程度研究が必要であると思いました。今後、「オール飯能」という第5次飯能市総合振興計画の考え方を受けて、具体的に学校サイドに働きかけをして、どれほど具現化できるかということを含めて進めて行きたいと思っています。</p>
<p>大野委員長</p>	<p>本当に良い意見がたくさんでした。</p> <p>教育委員がいうことではないかもしれませんが、企画調整課から定住に繋がる何かいい案をだしていただき、「オール飯能」で山間部を盛り上げていかななくてはならないと思います。それは市長の考えでもあるかと思えます。山間部に住めるような特別なものを持っていかないと、現状を維持していくのがやっとな状況だろうと思えます。そこは思い切った施策も必要なかと思えます。総合教育会議が出来た訳ですから市長部局と教育委員会が一体となって話を進めさせていただければよいと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>まさに市長になって私の思いは人口増であります。人口が減ってしまうようではいけません。吾野地域でも人口増になっていけば素晴らしい教育の発信になっていくと考えます。人が来ないのが悪いわけではありません。人が来ないのは何か足りないのだと思っています。それは私の責任です。皆様のお力をしっかりと受けて、地元の皆様と共に人口増に結び付く発展可能性都市を目指していきます。発展可能性都市として、吾野地域も含まれていることを認識しなければなりません。統合して良かったという思いになっていただくことが我々の務めだと思います。</p> <p>それでは、「②小規模校の学校規模適正化について」は以上とさせていただきます。よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(異議なしの声あり)</p>

<p>市長</p>	<p>それでは、「②小規模校の学校規模適正化について」は以上とさせていただきます。</p> <p>しかし、これで終わりではなく、はじまりです。計画のはじまり、実行のはじまり、会議の改めてのスタートだと思えます。</p> <p>今後、事務局の方でどのように進捗させるか、皆様の意見を拝聴してやっていきたいと思えます。ご理解いただきまして、今後の進め方等については事務局の方から報告があるかと思えますのでよろしくご理解賜りたいと思えます。</p> <p>皆様には大変ご理解ご協力を賜り、本当に中身の濃い素晴らしい会議になったと私は思っています。飯能市のため、子どもたちの幸せのためにもこれからもしっかりとした中身の濃い会議を開きたいと思えますのでよろしく願います。それでは、これにて議長の座を降ろさせていただきます。</p>
<p>企画調整担当 部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題の「②小規模校の学校規模適正化について」は、今の議論を踏まえまして教育委員会と市長部局が一体となりオール飯能市役所として、地元の方々と協議をスタートさせていただき、一緒に考えていくということで進めさせていただきたいと思えます。</p> <p>そして続いての議題「その他」につきましては、次の総合教育会議の日程をいつ頃という目途を付けさせていただき、本日の調整協議事項がどの程度進んだかというご報告も含めてさせていただきたいと思えます。次回の会議の時期を秋口の10月若しくは11月頃とさせていただきたいと事務局としては考えておりますが、皆様方はいかがでしょう。</p>
<p>委員</p>	<p>(異議なしの声あり)</p>
<p>企画調整担当 部長</p>	<p>それでは、第2回総合教育会議を10月若しくは11月頃に開催する予定とさせていただきたいと思えます。よろしく願います。</p> <p>それでは本日は、委員の皆様方には長時間にわたり、非常に中身の濃いご意見、ご議論いただきまして誠にありがとうございました。事務局の方ではそれを踏まえまして進めさせていただきたいと思えます。</p> <p>最後に委員の皆様から連絡事項等何かございますか。</p>

<p>委員</p> <p>企画調整担当 部長</p>	<p>(特になしの声あり)</p> <p>それでは、本日の会議はこれにて閉会とさせていただきます。 誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">終了 10時35分</p>
--------------------------------	--

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成 28 年 8 月 29 日

市長の署名 大 久 保 勝

委員長の署名 大 野 文 敬